

九月 鴻鴈來賓 爵ス集○下學集○問答○入大水爲蛤 菊○月○今○作○鞠○有黃華 豺ノ乃祭獸 草木黃落

蟄蟲咸俯

十月 水始冰 地始凍 雉入大水爲蜃 虹藏不見 天氣上騰地氣下降○氣○升○地○氣○降○ 閉塞

而成冬

十一月 鶡旦不鳴 虎○答○集○武○始交 荔挺出 蚯蚓結 麋角解 水泉動

十二月 鴈北鄉 鵲始巢 雉○並○有○始○字○下○文○雞○字○下○亦○同○雞○乳○ 征鳥厲疾 水澤腹堅○

○按ズルニ七十二候ノ解釋ハ、上文二十四氣條ニ引ク曆林問答集ニ詳ナリ、宜シク參看スベシ、

〔書言字考節用集時節分時〕

〔隣女晤言〕節分 曆に立春の前日をせつふんとありて、他の季には、冬ノ事トのみ

世にはおもへど、四季ともに果の日はせちふんといふべし、伊勢集に、

せちふんのつとめて、四月朔日みやにて、

いつこまで春はいぬらん暮はて、別しことはよるになりなき

かへし

兵衛佐命婦

くればて、春のわかれのちかければいくらのほどもゆかじとぞ思ふ

源氏やどり木の巻にも、春より夏にうつる所をせちぶといへる事あり、かう立夏の前をせちぶ

んといへれば、他の季もなぞらへて知べし、

〔源氏物語寄生四十九〕夏にならば、三條の宮ふたがるかたなりぬべしとさだめて、四月ついたちごろ

せちふんとかいふ事、まだしきさきにわたし奉りぬ、

〔中右記〕保安元年四月朔日辛未、今夜夏節分也、